

■行政改革推進委員会 提言書を提出

市行政改革推進委員会（降旗富雄会長）は8月8日、新本庁舎建設後における本庁組織のあり方に関する提言書を市長へ提出しました。

市では、新本庁舎建設にあわせ、行政改革の視点から市総合計画に定めた政策・施策をより確実に実現できる組織の構築を

目指しています。このうち市民生活に密接な各種相談、まちづくりや福祉医療など3つの分野における本庁組織について、委員会に提言を求めています。

提言書では、市が示した組織見直し案をおおむね妥当とした上で、部局数を抑制し、市民の側に立った、横断的な組織体制



降旗委員長から提言書を受け取る宮澤市長

の推進などについて意見が添えられています。

今後、提言内容などを参考に、市民サービスの向上とスリムで効率的な行政の実現を目指します。

提言書の詳細は、市ホームページに掲載のほか、本庁舎内行政改革推進室でご覧いただけます。

■地下水は共有の財産 地下水シンポジウム開催

市と市地下水保全対策研究委員会（8月6日、掘金総合体育館）で「地下水で拓く安曇野の未来」と題したシンポジウムを開催しました。これは地下水の利活用が進む中、安曇野の地下水について理解を深めてもらうと開催したものです。

午前中の関連イベントには、親子連れなど34人が参加。安曇

野の水土記や、地下水の様子についてわさび田湧水群などを散策しながら学びました。

午後には開催されたシンポジウムには約250人が参加、高橋裕東京大学名誉教授による「日本の水文化と地下水」と題した基調講演が行われました。続いて行われたパネルディスカッションでは、藤縄克之信州大学教

授をコーディネーターに、安曇野の地下水を私たちの大切な財産として、その保全をしていく上での課題について、6人のパネリストが各専門分野から意見を出し合いました。

今後、市では地下水の保全と適正な利用について、条例や対策指針の策定に向けた取り組みを進めます。



地下水保全に向け、各専門家が意見を交わした。

◎中学生徒の作文紹介

平和への思い (中)

11月開催予定の「平和のつどい」に先立ち、市内中学生徒が感じたことや思ったこと、争いに対する考えや平和への思いなどをつづった作文を紹介します。

岡本 総務課庶務係

(TEL 71・2000 FAX 71・5155)

「私たちの使命」

穂高東中学校
田之上万穂さん



「あんな光景は、二度と見てほしくない。原爆は絶対悪だ」。あの8月6日、広島で被爆した藤本さんの言葉です。人が歴史の中で発明してしまった惨禍しか生み出せない核兵器を、いまだに否定しようとする人々は世界中にいます。しかし、誰かが声をあげれば、いつか世界からこの兵器がなくなる日が来ると信じています。日本に生まれた私たちには、核の恐ろしさを世界に訴え続ける使命があるのだと感じました。

「平和について」

堀金中学校
中沢佑熙さん



よく平和といいますが、今世界は本当に平和なのでしょうか。今でも、世界のどこかでは争いが絶えない国があります。小さなケンカがだんだん大きな戦争につながる。例えば、お互いの思い違いから口ゲンカになって、やがて争い事に発展していく。その思い違いをなくすにはどうすればいいか。それはお互いを助け合い、あいつの気持ちを考える事だと思いません。

「いつになれば」

堀金中学校
上條美咲さん



人はなぜ、平和を望むのだろう。それはきっと、大切な人を失いたくないからだと思う。平和とは世界中の人が毎日笑って過ごせること。平和とは、世界中の人が

「平和学習で感じたこと」

穂高東中学校
兒林夏純さん



「なぜ戦争は起きたの？」それは日本人の自分勝手な行動から始まったと思います。「どうやって平和になれるか？」その回答は自分の中にあると思います。争いを起こさないためには、平和になるためには、「差別」や「いじめ」などをなくすことだと思います。そうすれば、またあんな過ちを起ささないし、平和でいられると思います。世の中うまくいかない事だらけでも、そこをがまんすれば平和になっていくと思います。

放射能汚染の影響について 市特別講演会を開催

福島第一原発事故による放射性物質汚染の影響についての特別講演会を8月1日、豊科公民館ホールで開催しました。講師に医師でチェルノブイリ原発事故後の医療支援活動の経験がある菅谷昭松本市長をお迎えし、当日は700人を超す聴講がありました。「放射能汚染から学ぶ～今、市民にできること～」と題した講演で菅谷松本市長は、乳幼児や妊産婦の保護・汚染調査など、国全体での取り組みの必要性を説くとともに、市民の皆さんの冷静な対応を求めました。

